

目指すは『日本一の民謡歌手』

第54回郷土民謡民舞青少年みんよう全国大会
小学生の部(低学年) 準優勝

日戸 楓乃 さん

ヒノト・カノ 7歳 平笠小2年



平成20年生まれ。幼稚園年長時から民謡を習い始める。日本郷土民謡協会主催の第54回郷土民謡民舞青少年みんよう全国大会(7月19日、東京都)で、小学生の部(低学年)で準優勝に輝く。A型のみずがめ座

「たくさん練習したので、大会でも緊張はしませんでした」と、堂々とした表情で話すのは、『第54回郷土民謡民舞青少年みんよう全国大会』小学生の部(低学年)で南部牛追唄を披露し、準優勝を獲得した日戸楓乃さん。



真剣に稽古に励む日戸さん

民謡を習い始めたのは、2年前に大更で開催された民謡シヨウがきっかけ。親類が歌う姿を見て「私も歌いたい」との思いが湧き起こりました。今ではすっかりその魅力に取りつかれており、アニメやアイドルの音楽ではなく、日々民謡を聴き続けているとのこと。

市内と盛岡市で週に1回の稽古を積み、20曲以上のレパートリーを持つという日戸さん。稽古では、ひとつたび三味線などの伴奏が鳴りだすと、顔がきりりと引き締まり、全身からみなぎ

る歌声を部屋中に響き渡らせます。休憩中は、一緒に稽古する人たちへ率先して飲み物を配る、しっかり者な一面をのぞかせます。

休日は、地域のお祭り・イベントへの出演や老人ホームなどで歌声を披露。県内各地の大会にも出場し、芸を磨いています。

今後について「いろんな大会に出て、優勝したいです。将来は、日本一の民謡歌手になりたいです」と、意気込みを語りました。

今月の表紙 力を合わせれば勝てるかも?

7月23日、寄木保育所(大森玲子所長、園児46人)の3~5歳児30人が、平館高校を訪れ、相撲を体験しました。

園児は、同校相撲部の練習風景を見学したほか、そんきよや四股、すり足を体験。その後、4人一組で部員と取組の機会が設けられると、園児たちは、自分たちの体の何倍もある部員達を力いっぱい押すなどして、相撲の楽しさに触れました。



すり足の練習

編集後記

「キラリ輝人」日戸さんの取材時に、稽古場にあった全国民謡歌詞集をのぞくと、沖縄民謡が数曲載っていました。知っている曲があったので、西根民謡好成会の人に促され、一曲披露することに。すると、合格サインをいただきまして(笑)、会のメンバーとして受け入れてもらいました。これから稽古場に通り、少しずつ民謡を楽しみたいと思います。いつか市内のイベントで沖縄民謡が聞かえる日がくるかもしれません。

④